

クロダイ養殖試験

新垣盛敬

クロダイの稚魚(5~12)cmが5月から11月頃までの7ヶ月間全琉各地の入江、又は川口周辺で見受けられ容易に採捕ができる。

本種は鮮魚としても市場価値が高く、比較的成長も早いことから小割網生簀による養殖の可能性について、試験をおこなったので、その概要を報告する。

試験の方法と材料

試験期間 1968年7月25日から69年3月25日まで

試験場所 屋我地村前垣地先入江

試験施設 3m立方の小割生簀クレモナ12節1個

種苗は7月25日羽地村仲尾次沿岸地先で、建干網で採捕した200尾(1尾平均10g)をクリ舟で40分間海上輸送し、予め用意した施設に收容した。その間の斃死率は20%であつた。收容後、1週間までに網ズレによる斃死が10%であつた。

餌料は人工配合餌料コイ用6Pペレットと冷凍サバを3対1の割合で、サバをチヨツパーにかけ調合して放線虫の3割を1日1回投与した。摂餌については、生簀收容後、4日間は全く餌付けが見られなかつたが、その後は良好であつた。尚收容の日から網取り替え時に原則として月1回成長測定(体重のみ)をおこなつた。

結果と考察

生簀收容時(1尾平均体重)10gの種苗が1ヶ月後には24gに成長し8ヶ月間養成で月平均の増重量は11.2gであつた。歩溜りについては盜難、網の破損、逃避等で5%であつた。結果は第1図に示した。

